

<認知症対応型共同生活介護用>

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4673400091
法人名	社会福祉法人 曙福社会
事業所名	村長の家
訪問調査日	平成20年7月29日
評価確定日	平成20年8月28日
評価機関名	特定非営利活動法人 シルバーサービスネットワーク鹿児島

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4673400091
法人名	社会福祉法人 曙福祉会
事業所名	村長の家
所在地 (電話番号)	鹿児島県日置市吹上町永吉14145 (電 話) 099-296-2308
評価機関名	特定非営利活動法人 シルバーサービスネットワーク鹿児島
所在地	鹿児島市真砂町34番1号 南光ビル303号
訪問調査日	平成20年7月29日

【情報提供票より】(平成19年10月1日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成12年7月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	11 人	常勤	5人, 非常勤 6人, 常勤換算 6.2人

(2)建物概要

建物構造	木造瓦葺 造り		
	1階建ての	1階 ~	1階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	34,000 円	その他の経費(月額)	円
敷 金	有(円)	(無)	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり	780 円	

(4)利用者の概要(10月1日現在)

利用者人数	9 名	男性	0 名	女性	9 名	
要介護1	4 名	要介護2	4 名			
要介護3	1 名	要介護4	0 名			
要介護5	0 名	要支援2	0 名			
年齢	平均	86.3 歳	最低	80 歳	最高	100 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	しいの内科クリニック、馬場病院、にこにこ歯科
---------	------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは、旧村長宅を住民とともに改修した趣のある建物で、地域のシンボリック的存在となっている。自治会や防災組織に加入しており、日頃から地域との行き来が多く、住民の協力体制も強固である。居室はすべて和室であり、入居者はこれまでの生活と違和感なく過ごすことができる。旬の野菜などを囲む食卓では笑顔が絶えず、一つ屋根の下で暮らす入居者と職員の良好な関係が伺える。職員の定着率は高く、馴染みの顔でケアが継続されることは、入居者やご家族にとって大きな安心材料となっている。研修内容は幅広い分野に及び、さらなる向上を目指して研鑽に努めている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) これまでの理念に加え、地域密着型サービスとしての思いを盛り込んだ理念を掲げている。入居希望者が安心して馴染みながらサービスを利用できるように、事前訪問やこれまでの生活環境・生活歴等の情報収集、体験利用といった取り組みを行っている。災害対策については、様々な想定訓練や備蓄を行い、地域の協力体制も整っている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 評価の意義を全職員が十分に理解し、全員で自己評価に取り組んだ上で、協議する場を設けて互いの意見を交換し合っている。日頃のケアに対しての振り返りの機会として捉え、改善へ向けて前向きに取り組んでいる。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議は2ヶ月に1回定期的に開催され、毎回さまざまな議題が取り上げられており、各委員からはそれぞれの立場から活発に意見が出されている。評価の内容やヒヤリ・ハット報告書等も提示して、日々のケア内容について具体的な意見を求めるなど、質の向上に活かされている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) ご家族から意見を出しやすいように、普段からケア内容や運営状況について積極的に情報発信しており、オープンな雰囲気づくりに努めている。家族会や面会の際に出された提案については、迅速に運営に取り入れている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 地域の自治会に加入しており、回覧版を届ける際には入居者も同行して顔を出し、挨拶や近況を話すなどして普段からのお付き合いを大切にしている。地域の催し物にも積極的に参加しており、小学校や警察・消防といった機関とも相互に交流があり、協力体制も確立している。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスとして位置付けられたことを機に、職員全員で、入居者が地域の中で最後まで暮らし続けることを支えていくことについて改めて話し合い、事業所独自の理念をつくりあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員が日々のケアの中から生み出した理念であるため、実践の場においても入居者の特徴に合わせて対応している。日々の申し送りでは、職員相互に次のケアに活かせるように一日の振り返りを行っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の自治会に加入しており、回覧版を届ける際には入居者も同行して顔を出し、挨拶や近況を話すなどして普段からのお付き合いを大切にしている。地域の催し物にも積極的に参加しており、小学校や警察・消防といった機関とも相互に交流があり、協力体制も確立している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義を全職員が十分に理解し、全員で自己評価に取り組んだ上で、協議する場を設けて互いの意見を交換し合っている。日頃のケアに対しての振り返りの機会として捉え、改善へ向けて前向きに取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回定期的開催され、毎回さまざまな議題が取り上げられており、各委員からはそれぞれの立場から活発に意見が出されている。評価の内容やヒヤリ・ハット報告書等も提示して、日々のケア内容について具体的な意見を求めるなど、質の向上に活かされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	行政担当者とは運営推進会議以外にも日頃から話し合う機会を持ち、ホームの現状や今後の見通しなどについて報告や助言を求めながら連携を深めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ご家族に対しては、入居者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理等について、毎月ホーム便りとともに詳細な報告書を送付している。ご家族からは、報告内容についての質問や感謝の言葉も返されており、双方向的なやり取りが行われている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族から意見を出しやすいように、普段からケア内容や運営状況について積極的に情報発信しており、オープンな雰囲気づくりに努めている。家族会や面会の際に出された提案については、迅速に運営に取り入れている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ここ数年間は退職者もなく、馴染みの職員によるケアが継続されている。職員の異動がある場合には、十分な引き継ぎ期間を設けて、入居者への影響が最小限に抑えられるように配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	多種多様なテーマの研修会へ、常勤・非常勤を問わず職員が万遍なく参加できるように配慮している。事業所内においても毎月勉強会が開催され、働きながら学習できる機会を確保し推進している。		研修機会は十分に確保されているが、さらなる向上のために、職員の経験・立場・習熟度等を考慮した個別の方針や計画を策定し、段階的な育成に取り組んでいただきたい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホーム協会に加入して、研修会で実践発表を行うなど交流する機会を設けている。また、毎年研修生を受け入れたりと、他のホームへ視察研修に出かけることで、質の向上へ向けて取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前にこちらから出向いて、本人やご家族、関係者から情報収集を行った上で、可能な限り見学に来ていただき、ホームの環境や雰囲気を見てもらってから入居を決定している。入居にあたり混乱が生じないように、ご家族の頻回な面会などにより、早く雰囲気に慣れるように支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者との生活の中で常に喜怒哀楽に関心を向け、身近な生活の習慣やこだわりの中から、学ぶ機会やねぎらいの言葉をもらっている。介護する・されるという一方的な関係ではなく、お互いを支え合う関係づくりに努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者の暮らし方への意向や思いについては、日頃から散歩や体操の合間での何気ない会話の中から汲み取り、業務日誌に記載している。申し送りの場面等を通じて、職員全員で共有をはかっている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人の暮らしへの意向を聞き、ご家族や関係者からの聞き取りと合わせ、今後の課題に対して誰がどのように関わるかをサービス担当者会議を通じて話し合いながら、介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月、入居者の状態の変化についてモニタリングがなされている。月例ミーティングにおいて、入居者の生活状況の変化を職員で話し合い、介護計画の見直しの必要性を検討している。	○	入居者の状態の見直しによって生じたサービス提供内容の変更について、介護計画を基に、関係者間で確認・共有していくことが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人やご家族の状況に応じて、医療連携体制を整えたり、専門病院への受診支援に努めている。単独での対応が困難な場合にも、インフォーマルサービスとの連携や母体法人からの協力を得て柔軟な支援を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者のこれまでのかかりつけ医を尊重し、継続的に医学管理をお願いしている。日頃からかかりつけ医との連携が密にとられており、受診状況の確認やその後の対応方法、ご家族等との報告・連絡もこまめに行われている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	昨年、重度化や終末期に対する意向の把握がなされ、方針の統一・共有が行われている。その後も、状況の変化に応じて繰り返し入居者やご家族の意向を確認し、かかりつけ医との意見交換も行いながら方針の共有に努めている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者一人ひとりに応じてわかりやすい表現や言葉かけに努めており、羞恥心や尊厳に配慮したケアを実践している。また、入居者の個人情報やプライバシーが侵されることのないように取り組んでいる。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者のこれまでの習慣や体調、天候等、その日の状態を見極め、一人ひとりに合ったペースで行動できるように配慮している。また、一日の過ごし方については、その都度入居者に尋ねて希望に沿うように努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	畑の野菜づくりや収穫、食材の下ごしらえや後片付けなど、その方の力に合わせて参加するなど、入居者と職員が一緒になって、食事が楽しみなものとなっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日入浴できる体制にあり、入居者の希望や状態に応じ、時間帯を工夫するなどしてその都度対応している。入浴拒否される場合は無理強いをせず、時間を変えたり声かけを工夫するなどして、できるだけ気持ち良く入浴できるように支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者の生活歴や特技、趣味等を理解し、一人ひとりに合った誘い方やセッティングに努めている。また、ホームの庭にある梅や柿等を利用することにより、自然と季節を肌で感じたり、これまでの生活習慣を日常に取り入れるなどの工夫がなされている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物や散歩に出かけたり、広い庭でお茶を楽しむなど、日頃から戸外に出る機会が多くある。時折、法人所有の公園で花見を行ったり物産館へ出かけるなど、遠方へも外出して買い物や気分転換を楽しんでいる。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日常的に施錠はしておらず、ご家族へも理解を求めている。落ち着かれない入居者には、行動要因の分析を行うことで対応を工夫している。また、地域の警察や住民の協力を得られるように、日頃から良好な関係づくりに取り組んでいる。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	毎月、火災避難訓練を行い定期的に消防署の立会いもある。昨年度から、地震・水害を想定した訓練も開始している。さらに地域の防災組織に加入しており、住民も訓練に参加するなど協力体制が整っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立については、法人の栄養士の協力を得て作成されており、バランスやカロリーに配慮したものとなっている。また、状態の悪い入居者に対する代替食の用意等、状況に応じた柔軟な対応が行われている。食事、水分摂取量については、目安を定めて摂取表により確保の支援を行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	昔ながらの風情を残した造りに安全面への配慮を加え、テレビの音や照明は、入居者が不快に感じないレベルに調整されている。生活感や季節感を十分に採り入れており、換気や清掃が行き届いた居心地の良い共用空間となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室自体に趣があるが、加えて入居者がこれまで使用していたものが持ち込まれ、思い出の写真や手作りのものが装飾されることで、さらに個性的な居室空間となっている。		